

## 2020 年度前期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—文芸学部—

学部長 林田伸一

2020 年度前期の授業は、コロナ禍の下、すべて遠隔授業となりました。それに伴い、この授業改善アンケートも、質問項目に一部変更があるなど、例年と異なるものでした。

まず、何よりも安堵したのは、設問 1「円滑に授業を受けることができた」(4.22) や設問 11「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」(4.12) をはじめとして、全体として前期の授業に対して肯定的な評価がなされていることです。

設問 2「この授業の内容を理解するために努力した」が 4.38 と高い数値を示しているのは、決して十分とはいえない環境の中で授業を受けた学生さんたちの努力を反映している。感謝したいと思います。

教育イノベーションセンターが行った「遠隔授業に対する学生アンケート」においては、教員の指示がわかりにくいなどの回答もあり、これも重く見る必要がありますが、他方で設問 3「教員は毎回の授業ごとに十分な指示を行っていた」や設問 12「教員の授業資料は見やすかった」がそれぞれ、4.19; 4.13 という比較的高い数値になっており、全体としてはしっかりと授業運営がなされていたと見ることはできるのではないのでしょうか。

文芸学部の特徴としては、授業を通じて身についた資質・能力として、エ「言語運用能力」が高い数値を示しています。これは、例年のことですが、今回は、例年以上に高い数値になっています。

最後に、今回のアンケートの特徴として、回答率が低かったことに留意する必要があるでしょう。2019 年度前期は述べ履修者数 9,124 に対し述べ回答者数が 7,017 (76.9%) であったのに対し、2020 年度前期は、述べ履修者数 8,351 に対し述べ回答者数が 2,065 (24.7%) にとどまりました。回答してくれた学生は回答しなかった学生と異なる特徴を持っているのか、そのことによりアンケートの回答に一定の偏りが生じているのか、考慮すべき点ではないかと思います。

以上